

令和元年度中学校武道授業(空手道)指導法研究事業



基本形一の発表

令和元年度中学校武道授業(空手道)指導法研究事業(主催=日本武道館、全日本空手道連盟、日本武道協議会、後援=スポーツ庁)が11月5日~6日の2日間、岡山県倉敷市立庄中学校において研究者6名、研究協力者5名、連盟事務局2名が出席して実施された。

本事業は平成24年度から完全実施された中学校保健体育科における武道授業の充実へ向け、新学習指導要領に準拠し、年間8~10時間の授業時間想定で、各武道種目の特性を踏まえた指導計画、指導内容、指導法、評価等について、教育効果の上がる武道授業(空手道)指導法の研究をするものである。

現在、岡山県内の中学校では4校、倉敷市内では2校が空手道授業を実施。倉敷市立庄中学校では、空手道の授業を採用して6年目であり1、2年時に柔道と空手道の授業を5時間ずつ、男女別・2クラス合同で行っている。授業を担当する伊達洋教諭は空手道未経験であったが、全国空手道指導者研修会等で学んだ経験を活かして授業を行っている。

■1日目(11月5日)

◇開講式

はじめに日下修次くさか しゅうじ全日本空手道連盟理事・事務局長が挨拶に立ち、「空手道の授業採用校数は平成24年度当初の124校から増加し続けており、現在303校となっています。中学校武道必修化は

新たに複数種目を選択する必要性が迫られてきており、あらゆる中学校での授業に対応できるよう、全空連としても指導方法を一本化していかなければならないと考えています。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます」と述べた。

次に、中島昭博日本武道館振興課長が挨拶に立ち、「本研究事業での授業視察並びに研究協議を通じ、空手道のすばらしさを全国の中学生に伝えられるよう、また、生徒が主役の安全で楽しく効果の上る空手道授業を研究していただきたいと思います。2日間の本研究事業が充実したものとなることを期待しています」と述べた。

続いて、倉敷市立庄中学校河野和弘校長こうのかずひろが挨拶に立ち、「過日開催された岡山県校長会において“健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現するための教育”と題して発表いたしました。その中で、本校で実施している空手道授業についても紹介させていただいたところ、空手道について多数の質問をいただきました。オリンピックを追い風に、空手道への興味・関心の高さを実感いたしました。2日間の研究事業が実りあるものとなることを期待しています」と述べた。

続いて、研究者を代表し、小山正辰こやままさし研究者が挨拶に立ち、「平成24年度に始まった中学校武道必修化も次の段階へ移行する時期となりました。今後の授業方法について、研究者並びに研究協力者の皆様の力を借り、より良いものを作っていきたいと思っています」と述べた。

◇授業視察

開講式後、剣道場に移動し、授業視察を行った。本年度の武道授業は柔道 5 時間、空手道 5 時間を実施予定で、柔道が終了し、本時は空手道 5 時間目の授業であり、“基本形一”を中心に授業が展開された。

まず整列し、全員で正座、礼。準備運動後、“その場突き”、“その場蹴り”を行った。担当の伊達洋教諭からは、「突きは引手をしっかりとり、鳩尾を狙って突くように。蹴りは膝をしっかりと曲げ、引き揚げてから蹴るように。また、背筋を伸ばし、正しい姿勢を保つように」との注意があった。

続いて、中段順突きと上段受けの“移動基本”を行った。「移動する際に手から先に動かさないように。相手がいると思ってしっかり狙って突くこと。また、移動中は視線を下げないように。回って下段受けの時は、足幅、手首、手の位置について気を付けること」と注意点が述べられた。

続いて、“基本形一”を号令に合わせて順番を確認しながら実施した。その後、7～8名ずつのグループに分かれ、それぞれアドバイスをしながら繰り返し練習を行った。最後に全員で3回連続通して実施し、授業は終了した。

生徒からは「みんなで形を合わせることが楽しい」「組手もやってみたい」との意見が聞かれた。



◇研究協議

授業視察後は会議室に戻り、授業実施者である伊達教諭を交えて、授業の振り返りを中心に検討協議を実施した。伊達教諭は、「空手道は身体接触がなく、安全に授業できる上、左右均等な動きが多いのでバランスよく身体動作を行うことができる。また、道具が必要ないのも魅力である」と空手道の授業採用利点について述べた。授業については、「サッカーやバレー等の団体スポーツとは違い、2人1組で練習することにより、お互いに高め合うことを意識している。また、武道なの

で礼儀作法については特に気を付けて教えている」と述べた。武道授業実施による効果については、「礼儀作法に対する意識は確実に高まっており、大きな声で挨拶ができるようになった」と述べた。研究者からの「柔道衣より体操服の方がいいのでは」という質問に対し、「男子は全員柔道衣を購入しており、生徒達自身が道衣を着たがっている。



道衣を着ることで気持ちが引き締まり、意識を高める効果もある」と説明した。

続いて、4名の研究協力者による実践例報告がそれぞれ行われた。木村陽子研究協力者より、「保体教諭と事前に打ち合わせをすることで効果的な授業ができた。また、オリンピック種目となりメディアでの露出も増え、生徒達の興味は高かった」と報告があった。その後、“3時間での空手道授業における指導内容・評価方法”について、2グループに分かれて検討協議し、初日は終了した。

■2日目（11月6日）

◇研究協議

午前中は実際に現場で補助教材として使える空手道学習ノートと学習カードの作成について検討した。掲載事項として、空手道の特性、約束事項、ねらい、評価項目（礼法・立ち方・突き・受け・移動基本・基本形）等を協議した。午後からは授業採用に向けた取り組み、次年度研究事業の検討を行った。授業採用に向けた取り組みについて小山研究者は、「教科書会社に対し、副教材に掲載されている空手道の内容充実を図るようアプローチしていく、都道府県連盟と連携し授業協力者候補のリストアップ、体育教員を養成する大学へ空手道の授業化の検討を依頼する」等が挙げられた。また、日下事務局長は、「全国指導者研修会の更なる充実を図ることが重要だと思う」と述べた。

◇閉講式

研究者代表挨拶を小山研究者が、主催者挨拶を日下全日本空手道連盟理事・事務局長、中島日本武道館振興課長が行い、全日程を終了した。